

傳染源地トハ緒言ニ述ヘタルカ如ク病○毒○ノ○巢○窟○ニシテ將ニ健康者ニ移傳スヘキ淵源ナリ而シテ其源地ノ種類左ノ如シ

(第一)患者ノ排泄物

患者ノ排泄物ニハ病毒ヲ含有スルヲ以テ最モ危險ナル傳染源地ナリトス例之ハ虎列刺患者ノ吐瀉物、窒扶斯及ヒ赤痢患者ノ糞便、急性發疹性傳染病ニ於ケル皮膚落片及ヒ分泌排泄液、結核患者ノ咯痰、實布埤里亞患者ノ咯痰、唾液等ニシテ一々枚舉ニ遑ナシ  
排泄物中ニ於ケル病毒ノ命數并ニ強弱

(一)強毒 新鮮ナル濃厚ノ排泄物中

(二)弱毒 減弱 空氣或ハ水中ニ稀釋ヲ受クルニ因ル

(三)短命或ハ滅毒 乾燥、滋養缺亡、日光曝露、腐敗性細菌トノ雜居等ニ因ス

(四)長命 排泄物ヲ濕潤状態ニ保チ且ツ寒冷及ヒ暗所ニ置クトキハ長命

ス、其寒冷ハ腐敗性細菌ノ増殖ヲ妨クカ爲メナリ

(注意)健康者排泄物中ノ病毒 傳染病流行時ニ當リテハ健康者ノ排泄物ニ

モ大ニ注意ヲ加ヘサルヘカラス何ントナレハ免疫性ヲ有スルモノ、人

體ニハ往々有毒ナル病原陰伏シ其排泄物ニ混シテ傳染源地ト爲ルコトアレハナリ例之ハ虎列刺、實布埤里亞ニ就テ見ルカ如キ是ナリ

(第二)排泄物ノ汚染物質

前記諸排泄物ノ附着セル布片、衣類、繃帶、夜具等ハ傳染源地ト成ル殊ニ是等汚染物ヲ包束スルトキハ乾燥ヲ妨クヲ以テ病毒ノ命數長シ爾他命數ノ關

係ハ(第一)ニ同シ

又便器及ヒ唾壺等

(第三)飲食器

主トシテ實布埤里亞又時トシテ虎列刺、結核、急性發疹性病者ノ使用セシ飲食器ハ傳染源地ト爲ル

(第四)爾他ノ諸器、病室

急性發疹性傳染病實布埤里亞、結核ニ於テハ玩具、書籍類、寢臺、家具、床、障壁等傳染源地トナル然レトモ他ノ傳染病ハ彼ニ比スレハ其場合少ナシ

(第五)空氣

病室内ノ空氣ハ急性發疹病ノ傳染ヲ介ス又結核モ其場合ナシト云フヘカ



ラス然レトモ虎列刺ハ決シテ空氣傳染ヲ來サス  
家外ノ空氣ハ假令ハ病毒ノ混合スルアルモ著ルシク稀釋セラレ、ヲ以テ  
傳染源地ヲ營爲セス

(第六) 惡水便池、下水管内容、土地

右ノ諸部ニ排泄物ヲ混合スルトキニ於テ著ルシキ稀釋ヲ受ケサル場合ハ  
傳染源地ト爲リ種々ノ徑路ヲ以テ傳染ス

(第七) 快復者并ニ屍體

虎列刺、實布埤里亞等ノ病原菌ハ、疾病快復後、數日間身體ニ寄生スルヲ以テ  
又總テノ傳染病死體ハ、病毒ヲ含有スルヲ以テ傳染源地ト爲ル

(第八) 所謂瘴氣性傳染病ノ傳染源地

破傷風、惡性水腫菌ノ如キ病原菌ハ、有機質ニ富饒ナル土地、水中等ニ生育ス  
ルヲ以テ肥料ヲ施ス田畑並ニ惡水等ハ之レカ傳染源地タリ

(乙) 傳染徑路

Die Infektionswege.

傳染徑路トハ傳染源地ノ病毒カ身體ニ移轉スル道路ニシテ其徑路數種アリ

即チ左ノ如シ

(第一) 觸接

傳染源地ニ觸接スルニ因テ感染ス而シテ其觸接部(皮膚、粘膜)ニシテ感受ノ  
要約アレハ直接ニ此處ヨリ感受シ又汚染セル手指ヲ口、鼻或ハ眼ニ觸レ或  
ハ皮膚ヲ搔癢スル等ニ依リ介達ニ感受ス例之ハ急性發疹病、丹毒、馬鼻痘、脾  
脫疽、實布埤里亞、虎列刺、室扶斯、結核、破傷風、痲病、梅毒、赤痢、ペスト等之レナリ

(第二) 病毒ノ混入セル水及ヒ食物ノ攝取

腸官ヨリ病毒ヲ感染スル諸患例之ハ室扶斯、虎列刺、結核、赤痢、獸類ノ脾脫疽  
等ハ此傳染徑路ヲ以テ傳染スルモノニシテ殊ニ一定ノ病毒ハ食物中ニ  
於テ發育ヲ遂クルヲ以テ最モ危險ナリトス又病毒ヲ混セル水ノ攝取ハ直  
接ノ傳染源トナルノミナラス又之ヲ以テ飲食器、洗滌、含嗽、浴料等ニ供スル  
ニ因リテ介達ノ傳染源因ト爲ルナリ

(第三) 吸入

病毒ヲ擔ヒタル塵芥氣中ニ飛散シ之ヲ吸入スルニ因テ傳染ス例之ハ結核、  
實布埤里亞、發疹性傳染病等之ナリ



(第四) 混蟲

刺蟲例之ハ虱、蚤、蚊、牛虱ノ媒介ニ依リ直接ニ病毒ヲ健康者ノ血中ニ刺植スルコトアリ例之ハ再歸熱、麻刺利亞、テキサス熱ノ如キ是ナリ又蠅ハ病毒ヲ自體ニ附着シ以テ直接ニ健康者ニ傳へ或ハ飲食物ニ移植シ以テ病毒散蔓ヲ營爲ス殊ニ虎列刺ハ其場合多シ

(丙) 感受要約

病毒健康者ニ傳ハルモ必スシモ發病スルモノニアラス其病毒ヲ感受スルニハ一定ノ感受要約ノ缺クヘカラサルコトハ既ニ第十一編第六章ニ於テ述ヘタリシヲ以テ今爰ニ詳説セスト雖尙傳染病豫防法ヲ行フニ當リ豫メ知ルヲ要スル簡條ヲ畧記スレハ左ノ如シ

(一) 各種病毒ハ侵入部門各々特異ナルコト

例之ハ虎列刺菌ハ腸ヨリ感受スルモ創傷部ヨリセス、破傷風菌ハ通常腸ヨリ感受スルコトナク常ニ創傷ヨリスルカ如キ是ナリ

(二) 感受素質ノ強弱

感受素質ヲ有スルモノ殊ニ其過敏ナルモノハ病毒ヲ感受シ易キモ感受質ノ微弱ナル或ハ全然之ヲ缺クモノ即チ免疫性ヲ有スルモノハ假令ヘ爾他ノ感受要約具ハルト雖決シテ病毒ヲ感受シテ發病スルニ至ラス

第二章 傳染源地(即チ病毒)ノ隔離及撲滅法

(甲) 病毒ノ隔離法

病毒ノ隔離法トハ病毒ヲシテ健康地若クハ健康者ニ傳播セシメサル目的ヲ以テ流行地若クハ患者ヲ隔離スル方法ニシテ傳染病豫防法中第一着手トシテ全力ヲ用キサルヘカラサル良策トス

即チ先ツ甲ナル流行地ヲ隔離シテ健康ナル乙地方ニ來ル病毒ヲ沮絶シ若シ其策ノ破レタルカ爲メ既ニ乙地方ニ患者ヲ生シタリトセハ斯ニ患者ヲ隔離シ以テ個人間ニ於ケル病毒ノ沮絶法ヲ講ス即チ左ノ如シ

(第一) 流行地トノ隔離法

該法ハ流行地ニ於ケル病毒ヲ健康地方ニ輸入セシメサル方法ニシテ若其流行地方ノ交通ヲ全然遮斷スレハ固ヨリ完全ナル隔離法ナリトス然レト



モ一市街村落等ヲ除クノ外大部分ノ領域(日本ト他州或ハ郡縣間)ニ於テ交通遮斷ヲ實行スル能ハス故ニ之レニ代アルニ左ノ方法ヲ行ヒ以テ病毒ノ輸入ヲ沮絶ス

(一)旅行者殊ニ汽車検査法

(二)船舶検査法

汽車検査法ヲ行フニハ單ニ患者ノ有無ヲ檢スルノミノ方法ヲ以テ病毒ノ輸入ヲ防止スル能ハス何ントナレハ潜伏期間ノ人及ヒ免疫性ヲ有スルモノハ假令ハ病毒ヲ自體內ニ藏スルモ敢テ發病セサルカ故ニ普通ノ診斷法ニ據リ之ヲ診知スル能ハサレハナリ爰ヲ以テ若シ各旅行者ニ就キ細菌學的診斷法ヲ行フヲ得レハ蓋シ完全ナル病毒沮絶ヲ見ン若シ是ヲ言フヘクシテ實行シ難キ事ナリトセハ竟ニ病毒ノ密輸入ヲ免ル能ハサルナリ然レトモ普通診斷的検査ニ依ルモ病毒輸入ノ機會ヲ減少スルコト蓋シ尠ナカラサルヘシ

船舶検査

汽車検査

「ベスト」病検査ノ注意

モ航海途上ニ於テ既ニ發病スルヲ以テ着航ノ際病者ヲ出タサ、リシ船舶ハ正ニ健康ナリト斷定シ得ヘシ然レトモ虎列刺病ノ如キハ免疫者ノ體中ニ於テ生育シ且免疫者間ニ傳染シツ、アルノ場合ナキヲ保セサルヲ以テ健康船舶ノ觀アルモ尙細菌學的診斷ノ必要アリ

又「ベスト」病ノ如キハ鼠族間ニ流行スル疾病ナルヲ以テ「ベスト」流行地ヨリ來ル船舶ニ就テハ斃鼠ノ有無ヲ檢シ若シ之レ有リトセハ細菌的検査ヲ行ヒ其「ベスト」菌ナルヲ確定スルトキハ假令ハ乗組人ニ病者ナキ場合ト雖尙病者アリシ際ト同一ノ取扱ヲ行ハサルヘカラス何ントナレハ上陸直前ニ於テ「ベスト」ノ傳染ヲ受ケタルモノナキヲ保スヘカラサレハナリ

(第二)患者ノ隔離法

前記ノ方法ヲ行ヒテ流行地ヨリ來ル病毒ノ輸入防止ヲ努メタルモ其効ナク竟ニ健康地ニ一名ノ患者ヲ發生シタルトキハ先ツ其初發患者ニ對シ全カヲ用キテ其病毒散蔓ヲ防止ス然ルニ若シ其初發患者ヲ忽ニスルトキハ竟ニ一地方ノ大流行ヲ免ル能ハサルヘシ即チ患者ニ對シ左ノ處置ヲ行フ



(一)患者ヲ診察シタル醫師ハ可及的迅速ニ確診(病原既知ノ傳染病ニ對シテハ)シ法規ニ從ヒ之ヲ當路者ニ報告シ總テノ豫防法ヲ嚴行ス

(二)患者ヲ隔離ス即チ傳染病院ニ投シ又若シ場合ニ依リテハ患者私宅ニ留メ其一室ニ隔離シ以テ看護者ノ外家族トノ交通ヲ遮斷シ又患者ヲ出シタル家ハ一定期間交通ヲ遮斷ス  
遮斷解除ノ時ハ家人ニ就キ細菌學的診斷ヲ行ヒ以テ免疫性者ノ病毒ヲ陰伏スルコトナキヤ否ヤヲ檢スルヲ要ス殊ニ虎列刺病ニ於テ然リ

### (乙)病毒ノ器械的除去法即チ清潔法

病毒ヲ器械的ニ除去スルノ目的ヲ以テ人體居室器具ノ洗滌法即チ普通ノ清潔法ヲ行フ但シ此方法ヲ以テ病毒ヲ全然除去スルコト難シト雖又一定ノ効ナキニ非ス唯次に記スル處ノ消毒法ト相待ツテ始メテ全効ヲ奏スヘキノミ

### (丙)消毒法 Desinfection.

消毒法トハ傳染源地ニ存在スル傳染病々毒ヲ殲殺スルノ方法ニシテ理學的

及ヒ化學的消毒法ノ二種アリ

### (A)理學的消毒法

理學的消毒法トシテ燒却、煮沸消毒、蒸氣消毒、日光曝露ノ四法ヲ用ユ

#### (第一)燒却

細菌學未開ノ時ニ於テハ唯一ノ消毒法トシテ總テノ汚染物質排泄物等ヲ燒却シタリシカ該法ハ物品ヲ烏有ニ歸セシムルヲ以テ敢テ費用スヘキ方法ニアラス殊ニ物品ヲ毀損セサル他ノ消毒方法ノ發見アリシ以來ハ燒却法ノ應用甚々狹縮シ唯左ノ場合ニ於テ之ヲ執行スヘキノミ

- (一)汚染物質ニシテ汚染甚ク且消毒後再ヒ實用ニ供スル目的ナキ物
  - (二)消毒後再用シ得ヘキモ其物質廉價ニシテ消毒費用ト相償ハサルモノ
- 例之ハ臥床ニ用キシ糞ノ類之ナリ

#### (第二)煮沸消毒

總テノ傳染病毒ハ五分時間攝氏百度ニテ煮沸スルトキハ死滅スルノ性アリ之レ研究室ニ於ケル試驗成績ナリ然レトモ實際ニ於テ汚染物質ト共ニ



煮沸スル場合ニ於テハ尙長時間ヲ要ス本邦規定スル所ノ煮沸消毒ハ沸騰後一時間煮沸スヘシトアリ蓋シ安全ナル實行法ト云フヘシ而シテ其煮沸消毒ニ適スル汚染物品ハ左ノ如シ

(一)總テノ衣服、臥具、布片類

(二)硝子製、磁器製、木製品ノ類

又熱湯ニ五十倍ノ割合ヲ以テ炭酸曹達ヲ加フルトキハ消毒愈確實ナリ但シ(二)ノ物品消毒ニ適用シ得ヘシ

(第三)蒸溜消毒法

蒸溜消毒法ノ執行方法并ニ一般ノ注意ハ第五章ニ詳述ス就テ看ルヘシ

(第四)日光曝露

日光ノ直射ハ病毒殊ニ虎列刺、ペスト等ニ對シ滅殺力アリ故ニ疊或ハ家具等ヲ石炭酸水ニテ拭洗スルノ後尙日光ニ曝露スルトキハ甚ク安心ナリトス又分散光線モ一定ノ殺菌力ヲ有スルカ故ニ室内ノ障戸ヲ開放シ光線通過ヲ自在ナラシムレハ一定ノ室内消毒ヲ行ヒ得ヘシ而シテ是等ノ場合ニ於ケル消毒力ハ單ニ日光ノミナラス乾燥作用之ヲ補佐ス

(B)化學的消毒法(消毒藥)

化學的消毒法トハ藥品ヲ以テ病毒ヲ滅殺スル方法ニシテ此藥品ヲ消毒藥ト稱ス而シテ試驗上消毒力ヲ有スル藥品類甚ク多シト雖或ハ價額不廉ナルカ爲メ或ハ製造原料ノ乏シキカ爲メ一般ノ應用ニ適當セサルモノ多シ故ニ吾人カ豫防消毒藥トシテ實地ニ採用シ得ヘキ藥品ハ左ノ資格ヲ具備セサルヘカス

消毒藥ノ資格

(一)高度ノ殺菌力ヲ有スルコト

(二)材料富饒ニシテ如何ナル多量ニテモ公衆ノ需要ニ應シ得ヘキ事

(三)可及的價格ノ廉ナルコト

(四)公衆ノ使用ニ放任シテ危害ヲ及ホサル事

上記四件ノ資格ヲ有シ公衆衛生上汎用ニ適スル消毒藥左ノ如シ

(第一)二十倍石炭酸水(百倍乃至二百倍ノ割合ナリ以テ鹽酸ヲ加フ)

之ヲ製スルニハ精製石炭酸ヲ重湯煎ニテ溶解シ其重量五〇瓦ニ水九十五立方仙迷ノ割合ヲ以テ混和スレハ則チ二十倍ノ石炭酸水ヲ得ヘシ又若シ



之ニ鹽酸ヲ加フルトキハ消毒力甚ク増強スルヲ以テ通常鹽酸加石炭酸水ヲ用ユ即チ二十倍石炭酸水九十九乃至百九十九立方仙迷ニ純鹽酸一〇瓦ヲ加ヘタルモノ之レナリ

鹽酸加石炭酸水ハ各種ノ傳染源地ヲ消毒スルニ適應ス而シテ其用法左ノ如シ

- (一)吐瀉物及ヒ他ノ排泄物ニ同容量ヲ加ヘ丁寧ニ攪拌ス
- (二)家具、壘室、壁等ヲ消毒スルニ石炭酸水ヲ浸シタル布片ヲ以テ丁寧ニ拭ス
- (三)手足等ヲ消毒スルニハ通常吾人カ水ヲ以テ洗フカ如キ方法ヲ用ユ洗滌後ハ數分時ノ後淨水ヲ以テ洗淨スルモ可ナリ

- (四)衣類布片ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサル石炭酸水中ニ數時間浸漬シ然ル後普通ノ洗濯法ヲ行フ
- (五)スプレー撒霧法ニテハ完全ナル消毒ヲ望ミ得ヘカラサルヲ以テ宜シク之ヲ廢シ必ス前記ノ如キ洗拭浸漬等ノ方法ニ據ラサルヘカラス

(第二)千倍昇汞水(常ニ百倍ノ割合ヲ以テ鹽酸ヲ加フ)

之ヲ製スルニハ昇汞一分鹽酸十分水九百八十九分ヲ混合シ丁寧ニ振盪ス元來昇汞ハ人體ニ對シ猛毒ナリト雖モ消毒用トシテ千倍ニ稀釋スレハ毒性微弱ト爲リ其一五〇乃至三〇〇立方仙迷ノ内用ニテ始メテ極量ニ達スルカ故ニ危害ヲ及ホスコト稀ナリ然レモ昇汞ハ臭味ナキヲ以テ俗間ニ放任スルニハ一定ノ注意ナカルヘカラス即チ之ニ色素ヲ溶解シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス例之ハ微量ノ「フロキシ」或ハ「アニリシ」色素ヲ混和スルカ如キ是ナリ

昇汞水ハ金屬ヲ損シ、蛋白質ヲ凝固シ且ツ毒物ナルヲ以テ其貯藏并ニ消毒實用ニ望ミ大ニ注意ヲ要ス即チ左ノ如シ

- (一)金屬ヲ侵蝕スルカ故ニ鑄製器ニ貯フヘカラス
- (二)右ノ理由ニ依リ金屬製以外ノ器具消毒ニ應用シ得
- (三)毒物ナルヲ以テ飲食器、玩具、壘敷物、障壁等ヲ消毒スヘカラス
- (四)飲料水中ニ滲透シ得ヘキ場所ノ消毒ニ用ユヘカラス
- (五)蛋白質ヲ凝固シテ硬固ノ塊片ニ化シ其中心ニ昇汞ノ浸入スルヲ自制ス故ニ糞便、吐物、咯痰等總テ蛋白質所含物質ノ消毒ニ用ユヘカラス但昇汞

昇汞水用法ノ注意



一〇瓦ニ付食鹽五〇瓦ノ割合ヲ以テ製シタル昇汞水ハ大ニ蛋白質ノ不溶性凝固ヲ防キ得ヘシト云フ

(第三)生石灰(粉末又ハ石灰乳)

生石灰ハ最廉ナル消毒藥ニシテ即炭酸石灰ヲ熱灼シテ製シタル酸化石灰一名假性石灰是ナリ本品ハ元來脆硬ナル石塊ナレトモ若シ之ヲ氣中ニ放置スレハ氣中ノ水分ヲ攝取シテ粉末ニ化シ(水酸化)次テ氣中ノ炭酸ヲ吸ヒ炭酸石灰ニ複ス既ニ炭酸石灰ニ化スルトキハ消毒ノ効力ヲ失フ故ニ生石灰ヲ貯藏スルニハ密閉器中ニ於テスヘシ而シテ消毒用トシテハ之ヲ直接ニ使用スルコトナク常ニ生石灰末若クハ石灰乳ト爲シ使用ス

生石灰末

(甲)生石灰末(即チ水酸化石灰)

石灰末ハ生石灰塊ニ少量ノ水ヲ注加シテ製シタル粉末ニシテ使用直前ニ之ヲ製スルヲ要ス何ントナレハ石灰末ハ氣中ノ炭酸ト化合シテ消毒力ヲ消失スレハナリ又石灰末製造ニ當リテハ高熱ヲ發スルヲ以テ破裂シ易キ器物内ニ於テスヘカラス而シテ其應用ニ就テノ注意左ノ如シ  
(二)生石灰末ハ水分ノ補助ヲ受ケテ消毒力ヲ發揮スルカ故ニ水分ニ富饒

石灰乳

ナル傳染源地例之ハ吐瀉物爾他ノ排泄物糞池下水溝渠等ノ消毒ニ適スルヘカラス  
(二)用量ハ前記傳染源地容量ノ五十分一以上ヲ用キ且ツ丁寧ニ攪拌セサルヘカラス

石灰末ハ(一)ノ理由及ヒ滲透力ヲ缺クカ故ニ實體ノ消毒ヲ要スル固形傳染源地例之ハ地層等ノ消毒ニ適セス

(乙)石灰乳(五倍乃至十倍)

石灰乳ハ生石灰一分ニ水四分乃至九分ノ水ヲ徐ニ加ヘ攪拌シテ製シタル乳狀液ニシテ此製劑ハ石灰末ニ反シ水分ヲ含有シ且滲透力ヲ有スルヲ以テ應用甚ク廣汎ナリ尙其注意左ノ如シ

(一)用量ハ石灰末ノ五倍ヲ要ス

(二)石灰乳ヲ靜置スルトキハ沈澱スルノ性アリ依テ用ニ臨ミ丁寧ニ攪拌セサルヘカラス

(三)石灰末附着ヲ忌マサル總テノ傳染源地ノ消毒ニ適ス

尙其應用ハ次項(C)「消毒ノ實行法」ノ條下ニ護ル

(第四)格魯兒石灰



該劑ハ粉末ノ儘或ハ二十倍乃至五十倍液トシテ用ユ其應用石灰及ヒ石灰乳ニ同シ

(第五) フォルムアルデヒッド瓦斯

「フォルムアルデヒッド」ハ木精ヲ不全酸化セシメテ製スル瓦斯體ニシテ之ヲ水ニ溶解セシメタル液ヲ「フォルマリオン」(三十五乃至四十「プロセント」ノ「フ」ト稱ス此「フォルムアルデヒッド」瓦斯并ニ「フォルマリオン」ハ強度ノ殺菌力ヲ有シ殊ニ瓦斯體ニシテ消毒力ヲ有スルモノ他ニ比類ナキヲ以テ近來該瓦斯ヲ以テ貴重品及ヒ室内消毒等ニ賞用ス(細菌學雜誌第二頁)而シテ此目的ニ使用スル「フォルムアルデヒッド」瓦斯發生裝置ハ數種アリ今其主要ナル種類ヲ舉クレハ左ノ如シ

田原氏消毒燈

(一) 田原氏消毒燈 該裝置ハ普通「ランプ」ニ類シ燈心ヲ以テ下部容器内ノ木精ヲ吸ヒ上ケシメ其燈心内ニ含蓄セル木精ヲ白金海綿ノ力ニテ連續的ニ熱灼シ以テ之ヲ不全酸化即チ「フォルムアルデヒッド」瓦斯ヲ絶ヘス(下部容器木箱發生室内ニ飛散セシムル裝置ナリ)

「トリラ」氏裝置

(二) 「トリラ」氏裝置 該器ハ「フォルマリオン」ニ格魯兒石灰ヲ混シ(「フォルモク」)ニ

「シエーリン」氏裝置

氣壓下ニ於テ加熱蒸發セシムル裝置ナリ  
(三) 「シエーリン」氏裝置 該裝置ハ「トリオキシメチレン」ヲ錠劑ニ製シ之ヲ加熱シテ「フォルムアルデヒッド」瓦斯ヲ發生セシムル器ナリ其「トリオキシメチレン」トハ「フォルムアルデヒッド」ヲ白色ノ粉末體ニ化セシメシモノニシテ之レヲ熱スレハ乃チ元ノ「フォルムアルデヒッド」ニ複スルノ性アリ

「プロシエー」氏裝置

(四) 「プロシエー」氏裝置 該裝置ハ「トリオキシメチレン」錠劑ヲ攝氏百八十度ノ熱氣ヲ以テ分解セシムル器ニシテ其理「シエーリン」氏裝置ニ同シ

「リングチル」氏裝置

(五) 「リングチル」氏裝置 該裝置ハワルテル「シュロースマン」ニ氏ノ立案ニ基ツキ「フォルムアルデヒッド」(「虞利施林水」ノ混合物所謂「グリコフォルマー」)ヲ蒸氣ト共ニ撒霧スル器ニシテ「トリラ」及「シエーリン」氏ノ裝置ヲ用ユレハ二十四時間ヲ要スル室内ヲ三時間ニシテ消毒ヲ完成シ得ヘシト云フ

(注意) 要スルニ「フォルムアルデヒッド」瓦斯ハ實質ヲ滲透スルノ性ニ乏シキヲ以テ夜具ノ如キ厚層物質ノ消毒ニ適セス只貴重品ニシテ其表面ニ附



「フォルムアルデヒド」瓦斯消毒ニ就テノ注意

着セル病○毒ヲ消毒スルニ適切ナリ即チ此際ニハ物品ヲ小箱ニ納メ箱内ニ瓦斯ヲ充溢セシム又室内消毒ハ室ノ大小ト瓦斯發生量ニ大關係アルヲ以テ實際消毒ニ從事スルモノ宜シク注意セサルヘカラス

(第六)五十%酒精

酒精ハ高價ナルヲ以テ一般ノ消毒藥トシテ汎用スルニ適セスト雖手指ノ消毒ニハ甚タ適切ナリ

(C)消毒ノ實行法

- (第一)罹病中ニ於ケル消毒實行法
  - (一)排泄物ハ一定ノ容器ニ收受シ之レニ同量ノ石灰乳ヲ混和シ丁寧ニ攪拌スルノ後一時間以上消毒ス又内容ヲ捨ツルノ後ハ更ニ容器ニ石灰乳ヲ注キテ再用ス
  - (二)汚染物質ハ覆蓋アル一定容器ニ收メ消毒所ニ送付ス
  - (三)消毒後使用ニ堪ヘサル小布綳帶等ハ燒却若クハ石炭酸水ニ浸漬ス
  - (四)患者ノ飲食器ハ用後其室内ニ於テ煮沸殊ニ曹達水煮沸ヲ行ヒ決シテ室

外ニ運フヘカラス

(五)看護者ニシテ患者或ハ汚物ニ接觸スレハ直チニ石炭酸水、昇汞水又ハ酒精ヲ以テ局部ノ洗滌殊ニ二三分間浸漬スルヲ良トス

(第二)患者快復時ノ身體消毒法

昇汞水ヲ以テ全身ヲ洗滌シ次テ温湯ヲ以テ洗滌或ハ全身浴ヲ行ハシメ新衣服ヲ着セシム

(第三)屍體消毒法

納棺ノ際ハ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ浸シタル布片ヲ以テ包ミ或ハ衣服ニ昇汞水ヲ灌溉シテ嚴重ニ消毒シ而シテ火葬スルヲ良トス

(第四)汚染或ハ汚染ノ疑アル物質ノ消毒法

該汚物ノ消毒法ハ理學的及ヒ化學的消毒法ノ條下ニ述ヘタル各種消毒法ヲ適宜ニ應用ス殊ニ蒸氣消毒法ヲ最良トス

又理學的消毒法(煮沸、蒸氣)ニ堪ヘサル物品ハ化學的消毒法ヲ行ヒ又尙普通ノ消毒藥ニ堪ヘサル物品例之ハ錦繡ノ如キ貴重品ハ「フォルムアルデヒド」消毒法若クハ日光曝露法ヲ行フ



(第五)患者ノ居室

石炭酸水ヲ以テ室内全部ヲ洗拭シ消毒後ハ開放シテ日光ヲ射入セシメ且空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシム又近來フホルムアルデヒド消毒法ヲ行フ

(第六)汚染シタル糞池土地溝渠等

糞池ニハ石灰末石灰乳或ハ格魯兒石灰水ヲ混和攪拌ス其用量ハ各劑ノ條下ヲ參照スヘシ  
土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ地質之ヲ吸取スレハ更ニ灌注シ數回反覆スルヲ要ス  
溝渠ニハ石灰末石灰乳或ハ格魯兒石灰若クハ其溶液ヲ混和シテ丁寧ニ攪拌ス其用量ハ各劑ノ條下ヲ參照スヘシ

第三章 傳染徑路ノ中斷法即傳播防遏法

傳染徑路中斷法トハ傳染源地ヨリ病毒カ健康者ニ傳ハル徑路ヲ切斷シ病毒傳播ヲ防遏スル方法ナリ(第一章(乙)傳染徑路ノ條下ヲ參照スヘシ)即チ左ノ如シ

(第一)已ヲ得ス患者ニ觸接スル者ノ注意

看護者及ヒ醫師ハ患者ニ觸接スルヲ免ル能ハス故ニ左ノ防遏法ヲ行フ

(一)看護者ハ可及的其疾患ニ免疫シタルモノヲ從事セシム

(二)豫防衣ヲ着シ且ツ衣服ノ汚染セサルコトニ注意シ若シ僅ニ汚染シタルトキハ石炭酸水ヲ浸シタル海綿ヲ以テ洗拭消毒ス

(三)看護者ハ患者同様ニ他人トノ交通ヲ絶ツ

(四)患者ニ接シタルトキハ手及ヒ前膊ヲ石炭酸水ニテ洗滌シ且ツ爪間ヲ丁寧ニ清洗ス殊ニ看護者就膳ノ時ニ於テ然リ

(五)患者ニ使用シタル總テノ器具例之ハ醫用器械飲食器具等ハ毎使用後適宜ノ方法ヲ以テ消毒ス

(七)醫師病室ニ入ルトキハ特ニ備ヘタル上靴ヲ用ヒ又履靴ノ儘室内ニ入ルトキハ石炭酸水ヲ以テ靴底ヲ消毒ス

(第二)病毒ノ氣中飛散ヲ防遏ス

空氣ヲ介シ傳染スル疾患即チ急性發疹傳染病ニ就テハ脂肪若クハグリセリンヲ以テ菲薄ニ皮膚面ヲ塗り以テ落屑片ノ飛散ヲ防キ又汚染物品ハ總



テ濕潤ニ保チ其乾燥ヲ防禦ス又室内掃除并ニ夜具衣服ノ振掃ヲ避ケ代フ  
ルニ拭掃ヲ用ユ又結核痰實布埤里略出物ハ乾燥ヲ避クルカ爲メ豫メ唾壺  
内ニ少量ノ水或ハ消毒藥ヲ注キ又汚染物質ノ乾燥ヲ避ケサルヘカラス  
(第三)水及ヒ飲食物等ノ消毒

飲料水、使用水、及ヒ飲食物ハ攝取前煮沸シ或ハ砂礫濾水法ヲ行フ(第六章)  
又包厨諸器ハ使用後曹達熱湯消毒ヲ行フ(結核病論略痰消毒ノ條下ヲ參照スヘシ)

(第四)昆蟲ヲ防禦ス

刺蟲、蠅ノ如キハ適宜ノ方法ヲ以テ其飛來ヲ防禦スヘシ例之ハ飲食物ハ蚊  
帳ヲ以テ覆フカ如キ是ナリ

(第五)下水及ヒ上水建設

一地方ニ完全ナル下水及ヒ上水工事ヲ建設スルトキハ其地方ヲシテ傳染  
病流行ニ對スル免疫性ト爲シ得ヘシ其建設法ニ就テハ本書之ヲ詳述スル  
ノ餘白ヲ有セス唯上水建設ニ就テノ主要部ナル砂礫濾過法ハ公衆衛生上  
大ナル關係ヲ有スルヲ以テ第六章ニ於テ其要ヲ畧說セント欲ス

### 第四章 感受素質除去法

感受素質除去法トハ以上ノ豫防方策ヲ施スニ拘ハラズ誤テ病毒ノ侵襲ヲ受  
クルアルモ體質ヲシテ之レニ感受セシメサル方法ニシテ『傳染病論感受要約』  
ノ條ニ述ヘタル諸原因ヲ去ルニアリ今其要ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 身體ノ健康ヲ保ツコト
- (二) 暴飲飽食ヲ爲サハルコト
- (三) 人工免疫法ヲ行フコト
- (イ) 豫防接種法
- (ロ) 免疫血清注射法

### 第五章 蒸氣消毒法

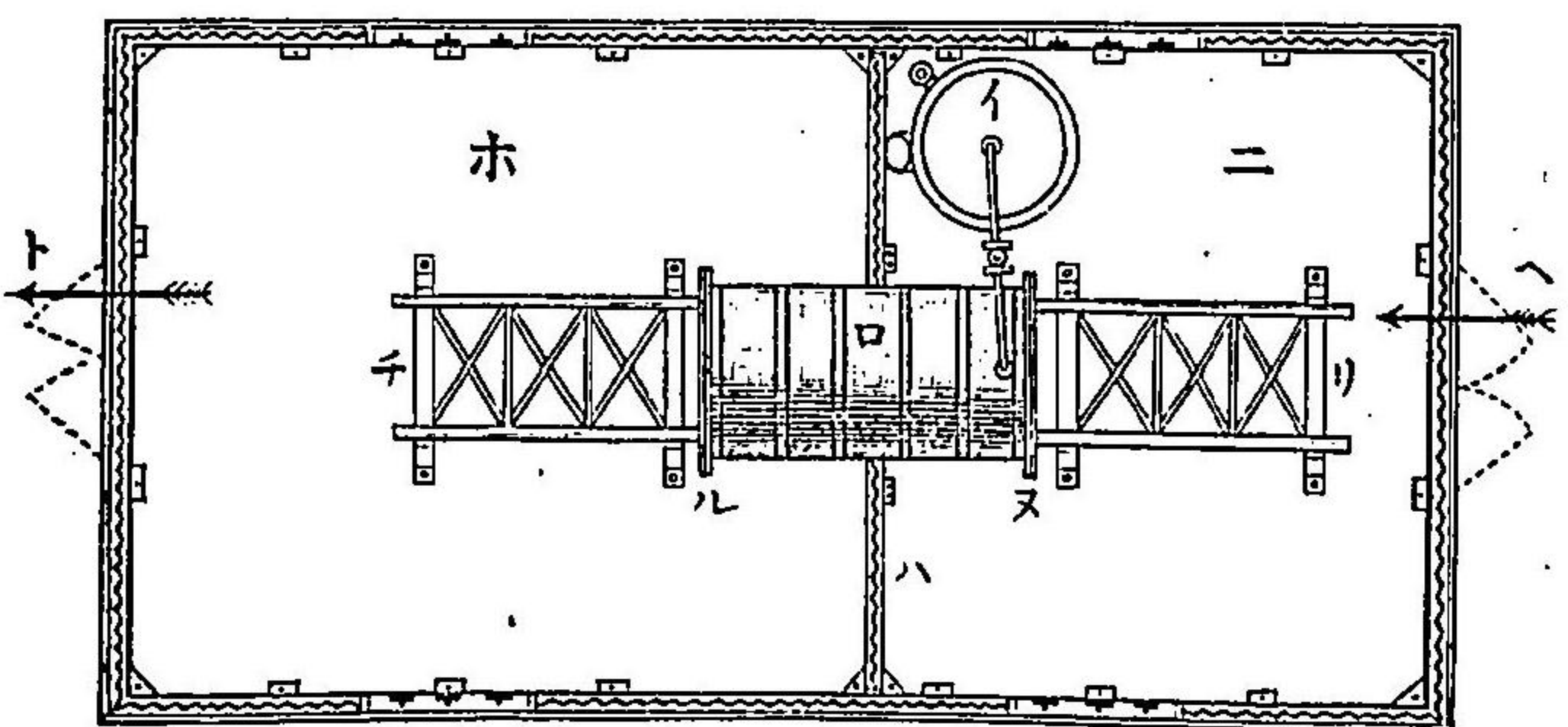
攝氏百度ノ飽和蒸氣ハ殺菌力強大ニシテ傳染病毒中抗抵抗力ノ最強ナル脾脫  
疽菌芽胞モ數分間ニシテ滅殺ヲ受クルノ性アリ且ツ蒸氣ハ物質ヲ毀損スル  
コトナク又實質内ニ滲透シ易キ性アルヲ以テ消毒法中最優等ニ位ス  
蒸氣消毒法ヲ執行スルニハ一定ノ裝置ナカルヘカラス今公共消毒所ニ設置



スル大装置ニ就キ其構造及ヒ消毒執行法ヲ畧記スレハ左ノ如シ

第三十圖(蒸溜消毒装置)

イ、蒸溜罐  
 ロ、消毒筒  
 ハ、隔壁  
 ニ、未消毒室  
 ホ、既消毒室  
 ヘ、入口  
 ト、出口  
 チ、リ、差込棚  
 ノ軌道  
 ヌ、ル、扉戸



(甲)蒸溜消毒装置(第三十圖)

蒸溜消毒装置ノ主要部分ハ汚染物質ヲ納メテ飽和蒸溜ヲ作用セシムル大圓筒即チ消毒筒及ヒ蒸溜發生源ナル蒸溜罐之レナリ其他ハ執行上ノ附屬装置ニ過キス

(一)消毒筒(ロ)

消毒筒ハ通常鐵製(小装置ニハ木製ナリ)ノ圓筒ニシテ左右ニ扉戸(ヌ、ル、扉)アリ開閉ニ自由ナリ而シテ該圓筒ノ周圍ハ狭キ外腔ヲ以テ圍繞ス故ニ消毒筒ヲ横斷スルトキハ内外ノ二腔ニ區分ス其大ナル内腔(第三十一圖「イ」)ハ汚染物

ヲ容ル、空所ニシテ外腔(第三十一圖「ロ」)ハ蒸溜ヲ充テ内腔ノ放温ヲ防禦ス又外腔ヲ缺キ之レニ代フルニ「ア」スベストノ厚層ヲ以テ消毒筒ヲ被包シ保温ノ目的ヲ達スルコトアリ又消毒筒ノ形状ハ楕圓形或ハ方形ヲ呈ス

(二)蒸溜罐

蒸溜罐(第三十圖「イ」)ハ普通ノモノヲ用キ蒸溜導管ヲ以テ消毒管ノ内外腔ニ連通ス(第三十一圖「ホ」)

(三)差込棚

差込棚トハ汚染物質ヲ積載スル鐵製ノ棚ニシテ其外形消毒筒内形ニ一致シ筒外ニ於テ汚染物質ヲ積載スルノ後、筒ノ内外ニ備ヘタル軌道(第三十圖「チ、リ」)ヲ介シテ之ヲ消毒筒ニ挿入若シクハ引出ノ用ニ供ス

(四)未消毒室及ヒ既消毒室(第三十圖)

家屋ハ通常長方形ニシテ消毒筒ヲ室ノ中央ニ安置シ且ツ消毒筒ノ中央ヲ横斷スル隔壁「ハ」ヲ設ケ以テ「ニ」「ホ」ナル左右ノ二室ニ分割ス即チ「ヘ」ハ入口ニシテ之レヨリ「ニ」ナル室ニ汚染物質ヲ輸入シ汚物ヲ取扱フノ場所ニ通ス故ニ此室ヲ未消毒室ト稱ス「ホ」ハ消毒執行終ルノ後既消毒物品ヲ差込棚ト共



ニ引キ出シ以テ清潔ナル物品ヲ取扱フ場所ナルヲ以テ之ヲ既消毒室ト稱シトノ出口ヨリ物品ヲ輸出ス

斯ノ如ク室ヲ分割遮断スル所以ノモノハ既消毒物品ノ更ニ汚染スルヲ防クノ目的ナリ然ルニ此兩室ハ只「ス」及ヒ「ル」ナル扉戸ノ同時ニ開放セシトキニ於テ交通スルヲ以テ消毒執行ニ當リテハ決シテ左右扉戸ヲ同時ニ開放スヘカラス。即チ差込柵挿入ノ際ハ「ル」ヲ閉チタル儘「ス」ヲ開キ引出ノ際ハ「ス」ヲ閉チタル儘「ル」ヲ開クヘシ又兩室ニ使用スル人夫ハ各、専務セシムルカ或ハ嚴重ナル消毒ヲ行ヒタル後既消毒室物件ヲ取扱ハシム

以上述フル所ノモノハ大消毒装置ノ構造ナリ然レトモ次ニ述フル總テノ注意ニ基ツクトキハ隨意ニ簡便ナル装置ヲ用キ得ヘシ例之ハ本邦蒸籠様装置或ハ歐洲ニ行ハル、運搬用小装置等之ナリ

(乙) 蒸氣消毒ニ就テノ三要件

完全ナル消毒装置ヲ設クルモ消毒實行ニ當リ左ノ三要件ヲ缺クトキハ假令へ蒸氣ヲシテ消毒筒内ニ充分輸送スルモ敢テ消毒ノ目的ヲ達スル能ハス其

蒸氣飽和ノ確徴

要件即チ左ノ如シ

(第一) 蒸氣ハ飽和緊張セサルヘカラス

蒸氣ノ消毒力ハ蒸氣カ空氣ト飽和シテ一定ノ濕氣ヲ帶フルニ因ス即チ濕熱作用ニ依リ強大ナル殺菌力ヲ呈ス其他和ノ定度ハ蒸氣ノ緊張度即チ壓力ト溫度ノ關係ヲ以テ之ヲ判知シ得ヘキモノニシテ其蒸氣飽和ノ確徴ハ消毒筒ニ附屬セル測壓器カ〇一ノ過氣壓ヲ示ストキ同附屬檢溫器カ筒内ノ溫度攝氏百二度七分ヲ報シ又若シ壓力〇二氣壓ヲ示ストキ攝氏百五度二分ノ溫ヲ報スルトキナリ故ニ若シ此溫度及ヒ壓力ノ權衡ヲ失シ溫度ニ比シテ壓力ノ低キトキハ飽和ノ度ヲ過キタル過熱蒸氣ノ徴ニシテ此際ニ於ケル蒸氣ノ殺菌力ハ單ニ乾熱作用ナルヲ以テ消毒力大ニ減弱シ又之ニ反シ壓力ニ比シ溫度低キトキハ未タ飽和ニ達セス即チ蒸氣ト空氣ノ混和物ナルノ徴ニシテ未タ消毒力ヲ呈スルニ足ラス故ニ消毒執行ニ當リテハ飽和時ニ於ケル溫度ノ對比ヲ失ハサルニ注意セサルヘカラス

(第二) 蒸氣ハ消毒筒内ニ充實スルコト

蒸氣消毒法ヲ行フニ當リテハ筒内并ニ汚染物質ノ間際例之ハ衣服、綿等ノ



纖維間ニ至ル迄飽和蒸氣ヲ以テ充實スルニアラサレハ消毒ノ目的ヲ達スル能ハス其充實ヲ妨クルハ空氣ノ現存ナルヲ以テ蒸氣流通ヲ始ムルト共ニ筒内ノ空氣ヲ全ク驅除セサルヘカラス此目的ヲ容易ナラシムルニハ蒸氣ヲ消毒筒ノ上方ヨリ流入セシメ空氣ヲ筒ノ下方ヨリ進出驅除スルヲ良トス何ントナレハ空氣ハ蒸氣ニ比シ氣重大ナレハナリ尙詳細ハ次ニ記スル『蒸氣消毒執行法』ノ條下ニ讓ル

第三 蒸氣ハ消毒筒内ニ於テ絶ヘス流動スルコト

消毒筒ヲ密閉シテ蒸氣ヲ通スルトキハ豫メ空氣ヲ驅除シタルニ拘ハラヌ蒸氣ハ靜止スルヲ以テ汚染物質ノ層間并ニ實質中ニ竄透セシムルコト困難ナリ故ニ其滲透ヲ容易ナラシメンカ爲メ消毒執行中ハ蒸氣排出管(第三十一圖)ヲヨリ蒸氣ノ一部分ヲ絶ヘス放出セシメ以テ筒内ニ於ケル緊張飽和蒸氣ヲ流通セシメサルヘカラス

(丙)蒸氣消毒執行法

蒸氣消毒執行ノ方法ヲ説明センカ爲メ假想第三十一圖ヲ設ケテ述フルコト

左ノ如シ

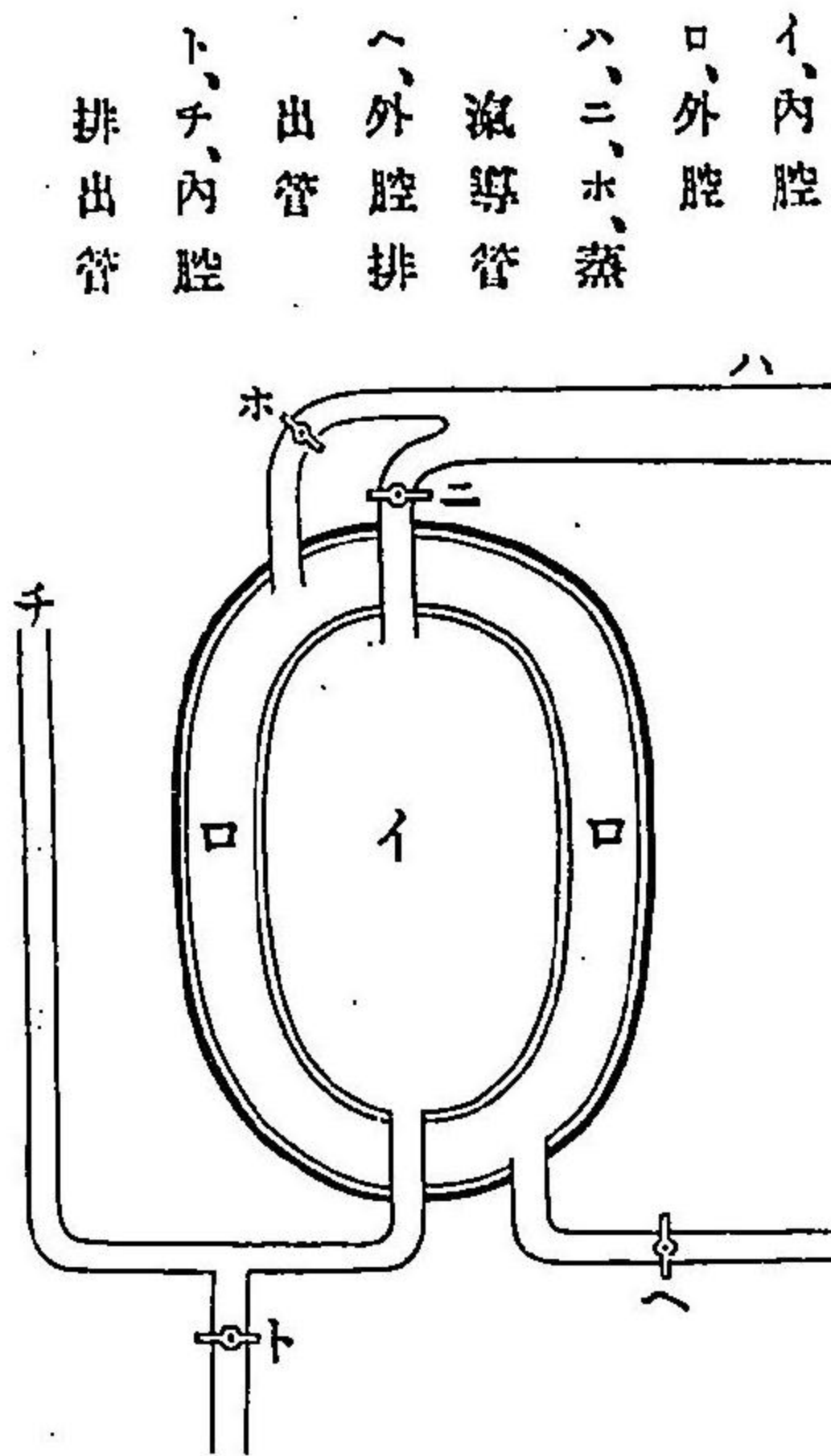
(第一節)消毒準備

蒸氣罐内ニハ充分ニ蒸氣ヲ貯藏セシメ而シテ汚染物質ヲ差込棚ニ積載シ未消毒室ニ向ヘル消毒筒扉戸ヲ開キテ之ヲ挿入シ再ヒ扉戸ヲ密閉ス但汚染物質積載ニ就テハ一定ノ注意ヲ要ス次項ニ就テ看ルヘシ

第三十一圖(消毒筒横断面)

(第二節)消毒筒外腔ニ蒸氣ヲ通ス

消毒内腔ニ蒸氣ヲ通スルニ先テ保温準備トシテ蒸氣導管(ハ)ノ末端ナル(ホ)活栓ヲ開キ蒸氣ヲ外腔(ロ)ニ流入セシムルト同時ニ(ヘ)ナル排出管ヨリ空氣及ヒ蒸氣流入ノ結果ニ因リテ生シタル凝聚水ヲ逸出セシム後



ニ至リ排出孔ヨリ蒸氣ノミ逸出スルニ至レハ(ヘ)ヲ閉塞ス但シ外腔ヲ缺キタル消毒筒ナレハ固ヨリ此一節ヲ省キ得ヘシ



(第三節)消毒筒内腔ニ蒸氣ヲ通ス

此一節ハ蒸氣ヲシテ汚染物質ヲ消毒スル主要ノ仕業ニシテ前記保温準備終ルノ後或ハ同時ニ蒸氣導管(ハ)ノ末端ナル「ニ」ヲ開キテ内腔(イ)ニ蒸氣ヲ通スルト共ニ「ト」ナル排出管ヨリ内腔内ノ空氣及ヒ凝聚水ヲ逸出セシメ後ニ至リテ單ニ蒸氣ノミ進出スルニ至レハ筒内ノ空氣正ニ去リタル徵ナルヲ以テ爰ニ於テ「ト」ヲ閉鎖ス然ルトキハ蒸氣ノ一部分ハ絶ヘス「チ」ナル蒸氣排出管ヨリ進出ス之レ筒内ニ於ケル蒸氣流動ノ目的ナリ

(第四節)消毒ヲ執行スルコト三十分時間以上

蒸氣排出管「チ」ヨリ蒸氣カ活潑ニ進出シ且ツ筒内ノ蒸氣カ飽和緊張ヲ示ス時(前項第一)ヨリ起算シ三十分時間以上執行ス但消毒執行中ハ絶ヘス蒸氣ヲ流入スヘキハ論ヲ俟タス

(第五節)消毒筒内腔ノ蒸氣ヲ驅除ス

消毒終ルトキハ蒸氣流入孔(ニ)ヲ閉鎖シ「ト」ヲ開キテ内腔ノ蒸氣ヲ逸出セシム外腔蒸氣ハ第六節ノ目的并ニ次回消毒執行ニ要スル保温ノ爲メ依然トシテ留置ス

(第六節)消毒筒内ニ於テ既消毒品ヲ乾燥ス

消毒終ルヤ直チニ既消毒物ヲ引出ストキハ其實質内ニ含蓄セル蒸氣ハ室内ノ冷氣ニ觸レテ忽チ凝聚水ニ化シ物質ヲ濕潤スルコト甚タシ故ニ第五節終ルトキハ直チニ筒ノ扉戸ヲ開クコトナク密閉ノ儘五分時間放置スヘシ然ルトキハ物質内ノ蒸氣ハ外腔ヨリ受クル溫熱ノ力ヲ假リ其大部分ハ飛散スルヲ以テ物質ヲ乾燥シ得ヘシ

(第七節)差込棚ヲ引出ス

未消毒室側ノ扉戸ハ閉テタル儘唯々既消毒室ニ向ヘル消毒筒ノ扉ヲ開キ差込棚ヲ引出スヘシ

(丁)汚染物品差込棚ニ積載ノ注意

汚染物ヲ差込棚ニ積載スルニ當リテハ蒸氣ニ堪ユル物品ナルヤ否ヤヲ識別シ又重積ニ就テ蒸氣滲透ノ難易ヲ察セサルヘカラス即チ左ノ如シ

(一)蒸氣消毒ニ適スル物品

衣類、夜具、布片等ハ絹、木綿、麻、毛織物ニ論ナク適當ス又磁器、木製器、硝子器等



モ適スト雖斯ル物品ハ確實ナル簡便ノ化學的消毒法ヲ行ヒ得ヘシ  
(二)蒸氣消毒ニ不適當ナル物品

(イ)革類塗物類護謨製品糊護謨及ヒ膠附品象牙鼈甲角類製品

(ロ)彈丸火藥等爆發若クハ發火シ易キ物品

(ハ)錦繡ノ如キ貴重品

(ニ)他物ヲ染色スル物品

(三)汚點防禦

稍清潔ナル物品ヲ最モ不潔ナル物品ト混同積載スルトキハ之レニ汚點ヲ附スルノ恐アルヲ以テ適宜ニ隔離スヘク又差込柵ノ鐵柱ニ直接スレハ衣類ヲ汚鋪スル恐アリ故ニ布片ヲ以テ隔離スルヲ要ス

(四)積載ハ可及的緩粗ナルヲ要ス

蒸氣ノ竄透力ハ世人ノ信スル如ク強大ナルモノニアラス故ニ數多ノ衣類ヲ嚴密ニ束包シタル儘若クハ行李箱等ニ納メタル儘積載スヘカラス斯ノ如キ物品ハ悉ク之ヲ開放シ且可及的緩粗ニ積載スルヲ要ス殊ニ數多ノ夜具ヲ重積スル場合ニ於テ然リ

### (附錄)蒸氣消毒裝置消毒力試驗法

消毒力試驗ニハ每常脾脫疽菌芽胞ヲ以テ其殺菌力ヲ試驗ス今其要ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(一)脾脫疽菌芽胞系ヲ南京鼠ニ接種シ且ツ寒天斜面培養基面ニ塗附シ豫メ其毒勢及ヒ生育力ヲ檢シ有力ナルコトヲ確證ス

(二)右芽胞絲二三條宛小布片ニ包ミタルモノ數箇ヲ製シ悉ク番號ヲ附ス

(三)右小包ヲ消毒筒ノ上下隅或ハ中央ノ差込柵ニ重積セル夜具衣服層間各所ニ挿入シ番號ヲ以テ各小包ノ所在ヲ記帳ス

(四)既ニ述ヘタル總テノ要約ヲ守リ蒸氣消毒ヲ執行スルコト三十分時間

(五)各小包ノ芽胞絲ヲ各別ノ寒天斜面ニ培養シ孵卵器内ニ納メテ脾脫疽菌ノ發育スルヤ否ヤヲ檢ス

(六)又對照試驗トシテ今使用スル寒天斜面ニ蒸氣消毒ヲ受ケサリシ同種芽胞絲ヲ培養シ其發育スルヤ否ヲ檢ス

(七)右ノ如クシテ對照的培養ニハ發育スルモノ試驗芽胞絲ノ菌發生ヲ見サルト



キハ消毒力完全ノ微ナリ

### 第六章 水ノ撰用及砂礫濾過法

#### (甲) 水ノ撰用

水ハ傳染病蔓延ニ就テ最モ危險ナル媒介物ナルヲ以テ傳染病ヲ豫防セント欲セハ日常供用スル所ノ飲料水并ニ使用水ハ細菌學の善良水ヲ撰ハサルヘカラス細菌學の善良水トハ其一〇立方仙迷中ニ含有スル細菌數ノ百箇以下ナルモノニシテ若シ上水等ニ於テ尙以上ノ菌數ヲ含有スルトキハ其水源ニ於テ外部ヨリ菌ノ混入スルコトノ自在ナルヲ示シ隨ツテ病原菌ノ混入ヲ免ル能ハサルヲ徵ス

天然ノ細菌學の善良水ハ山間ヨリ湧出スル清水及ヒ地底水ヲ導キタル掘抜井水ナリトス斯ル水ノ淵源ハ緻密ナル厚土層ヲ天然ニ漏過シ來リタルモノナルヲ以テ其水質ハ化學的并ニ細菌學の善良ナリ然ルニ是等善良水ト雖井戸側若クハ導水管ノ不完全ナルカ爲メ土地表層ヨリ汚水ヲ竄透シ忽チ不良水ニ化スルコトアリ宜シク注意セサルヘカラス

上水

泉水

掘抜井

雨水

又雨水ハ天然ノ蒸餾水ナルヲ以テ細菌學上水質ノ佳良ナルコト論ヲ竣タス

#### (乙) 砂礫濾過法

清水及ヒ地底水ヲ得ル能ハサル地方ニ在リテハ已ムヲ得ス河水ヲ導キ之ヲ濾過シテ細菌學の善良水ヲ得サルヘカラス而シテ該濾過ニハ常ニ砂礫ヲ用ユ故ニ之ヲ砂礫濾過法ト云フ

(第一) 砂礫濾過法ノ主眼

本邦ニ於テハ從來俗間ニ砂礫濾過法ヲ行フ即チ四斗樽ニ細砂ヲ充テ或ハ其法進化シテ之レニ木炭ヲ混シ上方ヨリ水ヲ盛り樽下ノ小孔ヨリ漏出セシムル方法ニシテ此方法ヲ行ヘハ濁水ハ化シテ清水ト爲ルヲ得ヘシ然ルニ該法ハ單ニ有形粗大ノ有機質及ヒ臭氣ヲ去ルニ留マリ決シテ細菌ヲ濾別スルノ性ナク寧ロ該法ヲ行ヒタルカ當メ原水ニ比シ含菌數增多スルコトアリ之レ濾過休止ノ際砂粒間ニ細菌ノ増殖シツ、アルカ故ナリ  
元來砂礫ナルモノハ假令ヘ細微且厚層ナリト雖決シテ細菌ノ通過ヲ防止スルノ性ナキヲ以テ前述ノ結果ヲ生ス故ニ俗間ニ行フカ如キ砂礫濾過法

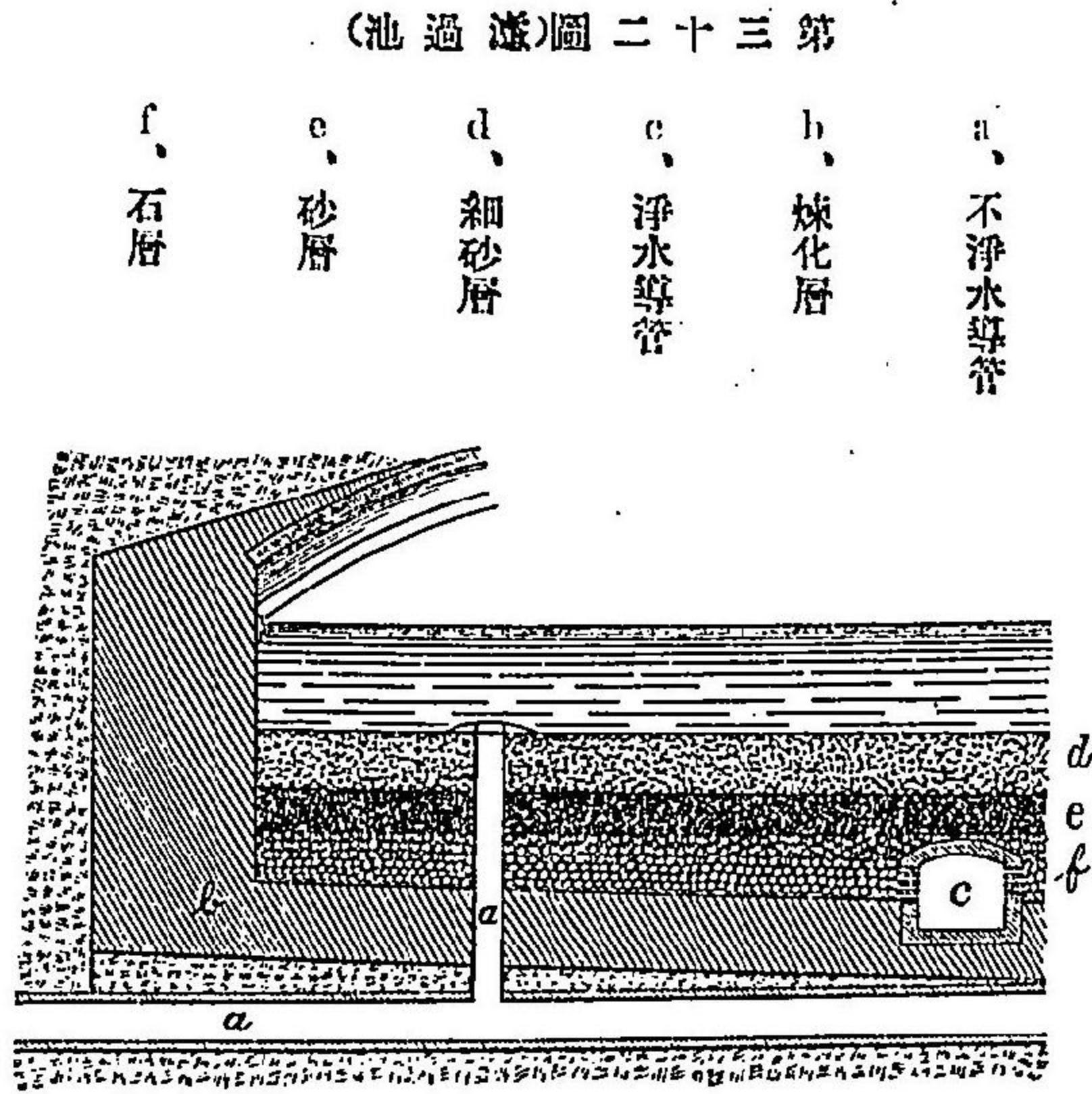


粘泥層

ヲ以テ細菌學的善良水ヲ得ント欲スルモ企テ得ヘカラス夫レ然リ細菌濾別ノ作用ヲ單ニ砂粒ニ放任スルトキハ固ヨリ其目的ヲ達スル能ハスト雖吾人ノ所謂砂礫濾過法ナルモノハ其實際ハ砂礫ヲシテ濾過セシムルニアラス却テ不良水ヲ砂層面上ニ滯留セシメ其水垢ヲ砂上ニ沈澱スルニ由テ生シタル粘泥層ヲ以テ細菌ヲ濾去スル法ナリ故ニ砂層ノ作用ハ只其濾過主要部ナル粘泥狀沈澱層ノ支臺タルニ過キサレナリ

(第二)濾過池(第三十二圖)

濾過池トハ砂礫ヲ盛リ濾過ヲ營ム大池ニシテ煉化石ヲ以テ建設シ(b)上方ハ屋根ヲ以テ覆ヒ底面ニハ數多ノ小孔ヲ具ヘタル清淨水導管(c)アリ濾地内ノ砂礫ハ下方ヨリ上層ニ至ルニ隨ヒ細砂ヲ



重疊スルモノニシテ即チ底面ニハ人頭大ノ石ヲ併列シ次層ニハ其二分一大ナル石ヲ敷キ其次層ニハ尙小ナル石即チ砂利次ニ小砂其最上層ニハ細微砂粒ノ厚層ヲ作ル而シテ最下大石層ヨリ小砂層ニ至ル高サハ凡三尺ニシテ唯最上層ノ細砂層ヲ支持スルノ用ヲ爲ス又最上ナル細砂層ハ高サ三尺乃至五尺ヲ有セサルヘカラス  
其他不淨水ヲ濾池ニ導ク導水管即チ不淨水導管(a)アリ又砂層内ノ空氣驅逐ノ目的ヲ以テ濾過池ノ四隅ニ空氣驅逐管ヲ設ク

(第三)濾過實行法

- (一)河水ヲ濾過池ニ導クニ先シ沈澱池ニ於テ粗大ノ有機質ヲ沈下セシム
- (二)既ニ沈澱シタル河水ヲ導クニ先シ濾過池ニ清淨水ヲ盛リ之ヲ砂層全部ニ包含セシム(清淨水導管ヲ閉鎖スルコト論ナシ)
- (三)次テ河水ヲ不淨水導管(a)ヨリ砂層面上ニ流入セシムルコト一メートル此際ニ於テ砂層ハ豫メ清淨水ヲ含ムカ故ニ不淨水ニテ汚カサルハコトナシ

(四)流入セシメタル河水ハ二十四時間或ハ尙以上靜置シ以テ河水中ニ含有



(附 録)

人名原字索引

パーク Paak  
 バセノー Basenau  
 ハフキン Haffkine  
 ハイム Heim  
 パルトーフ Paltauf  
 ハウセル Hauser  
 パッセー Passet  
 ハイデンライヒ Hydenreich  
 バイエリンク Beyerinck  
 バルビアーニ Balbiani  
 パウル Paul  
 バリー Bary  
 バビノウィチュ Babinowitsch  
 バイエリング Beyring

(ニ) ノ 部

ニコライエル Nicolaier  
 ニーマン Niemann  
 ニッセン Nissen  
 ニカチー Nicati

(イ) ノ 部

イセーフ Issaeff  
 イェーゲル Jäger  
 イスレール Israel  
 イワノッフ Ivanoff  
 イェルザン Yersin

(ロ) ノ 部

ロッシ・ドリャ Rossi-Dria  
 ローゼンバッハ J. Rosenbach  
 ロース Roos

(ハ)(バ)(パ)ノ 部

バストール Pasteur  
 ハンキン Hankin  
 バーベス Babes  
 バウムガルテン Baumgarten  
 バイフェル Pfeiffer  
 A. „  
 R. „  
 バイペル Peiper  
 バスカール Pasquale

訂増 實習細菌學各論(下) 終

セル水垢ヲ砂面上ニ沈澱セシメ濾過作用ニ極要ナル粘泥狀層ヲ形成セシム。

(五) 次テ今迄閉鎖シ置キタル清淨水導管ヲ開キ濾過池ノ底面ヨリ除且平等ニ淨水ヲ流出セシム但シ其速度ハ一時時間〇一仙迷以上ノ水柱ヲ流出セシムヘカラス若シ流出力強キニ失スルカ或ハ流出力ニ急變ヲ來ストキハ粘泥層ニ龜裂ヲ生シ細菌ノ通過ヲ自在ナラシム

(六) 淨水ハ濾過池ヨリ低地ニ設ケタル淨水滯溜地ニ入ラシメ之レヨリ鐵管ヲ導キ各戸ノ用ニ供ス

(七) 同一ノ砂層ヲ數日連用スルトキハ水垢ノ沈澱增多シ濾過力甚ク遅鈍ト爲ル故ニ斯ル際ニハ表面ノ汚穢砂層ヲ去ルヘシ但シ此砂粒ハ洗滌シ日光ニ曝露スル後ハ再ヒ供用シ得



ガベット Gabbett  
 カンパナー Canpana  
 カルニング Kalning  
 カザール Cazal  
 カルテル Carter  
 カニングム Cunningham  
 カルツリス Kartulis  
 ガマレイア Gamaleia  
 カンタニー Cantani  
 カッツ Katz  
 カルボネー Carbone  
 ガルレー Garré  
 ガイゲル Geyger

(タ)(ダ)ノ部

ターヴェル Tavel  
 ダーヴェン Davaine

(レ)ノ部

レーマン Lehmann  
 レフレル (リョフレル) = 同シ  
 レウイ Lewy  
 レヲ Leo  
 レザーゲ Lesage  
 レッデルホーゼ Ledderhose  
 レーベル Leber  
 レンク Renk  
 レヴィス Lewis

(ヌ)ノ部

ヌタール Nutall

(ル)ノ部

ルー Reux  
 ルストガルテン Lustgarten  
 ルビンスキー Lubinski  
 ルスチヒ Lustig

(ヲ)ノ部

ヲルトマン Ortmann  
 ヲレステル Orestor  
 ヲルト Orth

(ワ)ノ部

ワイセル Weisser  
 ワイクゼルバウム Weichselbaum

ワイガング Weigang  
 ワッセルマン Wassermann  
 ワイス Weiss  
 ワイベル Weibel  
 ワルテール Walther

(カ)(ガ)ノ部

ガフキー Gaffky  
 カル・ラットナー Carle Rattone

ヘンリゼアン Henrijean  
 ペーレ Péré

(ト)ノ部

トーマス Thomas  
 トース Thost  
 トリラ Trillat

(チ)(ヂ)ノ部

チール Tichl  
 チウドンテール Dieudonné  
 チュー・フレンケル C. Fraenkel  
 テーケルホーフ Dieckerhoff  
 チェルリ Celli  
 チンメルマン Timmermann  
 チェンタニー Centanni  
 チクチン Tictin

(リ)ノ部

リョフレル Löffler  
 リボリウス Liborius  
 リンゲルスハイム Lingelsheim  
 リーチュ Rietsch  
 リョシュ Lösch  
 リングナル Lingner

(ホ)(ポ)(ボ)ノ部

ポルレンデル Pollender  
 ホッフア Hoffa  
 ボルドニー・ウッフレッヅチー Bordoni-Uffreduzzi  
 ボアチー Boinet  
 ボイメル Beumer  
 ボルリンゲル Bollinger  
 ポストレーム Boström  
 ホフマン Hofmann

(ヘ)(ベ)(ペ)ノ部

ペートル Petri  
 ベール Boer  
 ペレロー Perrero  
 ベルネーム Bernheim

(ベルンハイム)

ベー・フレンケル B. Fränkel  
 ペートルシュキー Petruschky  
 ベッセル Besser  
 ベコー Beco  
 ペロンチトー Perroncito  
 ベック Beck  
 ペール Pochl  
 ヘギエス Högyes  
 ヘッセー Hesse  
 ベッフェル Becher  
 ベーリング Behring



|         |                     |           |             |
|---------|---------------------|-----------|-------------|
| (ゲ) ノ 部 |                     | クールモン     | Courmont    |
| ゲルマノー   | Germano             | クレープス     | Klebs       |
| ゲッサルド   | Gessard             | クッシュベルト   | Kuschbert   |
| ゲルトネル   | Gärtner             | グイナルド     | Guinard     |
|         |                     | グルーベル     | Gruber      |
|         |                     | グアルニーリー   | Guarnieri   |
| (フ) ノ 部 |                     | クレンペレル    | Klemperer   |
| ブラウエル   | Braucll             | グラウウィツ    | Grawitz     |
| フランクランド | Frankland, P.<br>F. | クルト       | Kurth       |
| フレンケル   | Fränkel             | グラッシ      | Grassi      |
|         |                     | グロービヒ     | Globig      |
|         |                     | クインケ      | Quincke     |
| B.      | ”                   | (マ) ノ 部   |             |
| C.      | ”                   | マリー       | Malie       |
| A.      | ”                   | マラリアノー    | Maragliano  |
| E.      | ”                   | マッフチー     | Maffucci    |
| プロイセ    | Preusse             | マルクセー     | Marcuse     |
| ブフチル    | Buchner             | マッテルストック  | Matterstock |
| ブール     | A. Pfuhl            | マンドリー     | Mandry      |
| ブムム     | Bumm                | マルモレック    | Marmorek    |
| フォルステル  | Forster             | マルヒアファーヴァ | Marchialava |
| フィンクレル  | Finkler             | マルキス      | Marx        |
| ブリオール   | Prior               |           |             |
| ブリストーヴ  | Bristowe            |           |             |
| フランク    | Frank               |           |             |
| フォア     | Foa                 |           |             |
| フラワ     | Hlawa               |           |             |
| フェレッチ   | Feletti             |           |             |
| フィツシエル  | Fischer             |           |             |
| ブロイニヒ   | Breunig             |           |             |

|             |            |          |               |
|-------------|------------|----------|---------------|
| (ウ) (ヴ) ノ 部 |            | レマーク     | Remak         |
| ウイルマン       | Villemin   | (ソ) ノ 部  |               |
| ウエルヘル       | Welcher    | ソードケウイチュ | Soudakewitsch |
| ウーヤール       | Vaillard   | (ツ) ノ 部  |               |
| ウィーダル       | Wiedal     | ツクレー     | Ducrey        |
| ウィーテル       | Wiener     | ツトレレボン   | Doutrelepont  |
| ウィルム        | Wilm       | ヅンバーン    | Dunbar        |
| ウエルヒ        | Welch      | (チ) ノ 部  |               |
| ウエルトハイム     | Wertheim   | チールセン    | Neelsen       |
| ウァルフ        | Wolff      | (ナ) ノ 部  |               |
| ウァルフヒューゲル   | Wolffhügel | ナイセル     | Neiser        |
| ウエルニヒ       | Wernich    | (ラ) ノ 部  |               |
| ウァード        | Wood       | ライエル     | Rayer         |
| (ノ) ノ 部     |            | ラツァルース   | Lazarus       |
| ノカール        | Nocard     | ラフルール    | Lafleur       |
| (ク) (グ) ノ 部 |            | ラヴラン     | Laveran       |
| クッチェル       | Kutscher   | ランドマン    | Landmann      |
| グラム         | Gram       |          |               |
| クライン        | Klein      |          |               |
| クノル         | Knorr      |          |               |
| グンブレヒト      | Gumprecht  |          |               |
| クルーゼ        | Kruse      |          |               |
| クレンケ        | Klencke    |          |               |



(メ) ノ 部

メッサアー Messca  
メチニコフ Metschnikoff  
メンゲ Menge

(ミ) ノ 部

ミュルレル Müller  
ミクリッツ Mikulicz  
ミクエル Miquer  
ミュンツ Müntz  
ミルレル Miller

(シ) (ジ) ノ 部

ジョーネ Johne  
シャンベラン Schambeland  
シュワルツ Schwarz  
シュッツ Schütz  
シンメルブッシュ Schimmelbusch  
シンモンド Simmonds  
シャンテメス Chantemesse  
ジェンセン Jensen  
シェーレル Scherer  
シュモル Schmorl  
シャルデンゲル Scharldinger

Armauer Hän-  
sen

アルニング Arning  
アルヴァレンツ Alvarenz  
アーベル Abel  
アロンソン Aronson  
アイゼンベルヒ Eisenberg  
アダメッツ Adametz  
アリ・コーヘン Ali-Cohen

(サ) ノ 部

サロモンゼン Salomonsen  
サルモン Salmon  
ザイフェルト Seifert  
サンフェリス Sanfelice

(キ) ノ 部

キット Kitt  
ギアンツルコー Gianturco  
ギアコミー de Giacomi  
キューネ Kühne  
ギルベルト Gilbert  
キーフェル Kiefer  
キースリング Kiessling  
キルボルン Kilborne  
ギアルデー Giardi

コッセル Kossel  
コンシルマン Councilman  
コウック Covacs  
ゴルギー Golgi  
ゴントルマン Gonnermann

(エ) ノ 部

エスマルヒ Esmarch, E.  
V.  
エールリヒ Ehrlich  
エルサン (イェルサン)=同シ  
エムメリヒ Emmelich  
エッシュリヒ Eschelich  
エー・フレンケル E. Fraenkel  
エルメンゲム Ermenghem  
エッピンゲル Eppinger  
エチントン Edington  
エーレンベルヒ Ehrenberg  
エルメンゲン Emmengen  
エーベルト Eberth

(テ) (デ) ノ 部

デリウス Delius

(ア) ノ 部

アロアン Arloing  
アー・フレンケル A. Fraenkel  
アルマウエル・ハンゼン

プリューゲリー Pflügeri  
プロシェー Brochet  
ブリーゲル Brieger  
フラトール Flatau, E.  
フェーゼル Feser  
フリュゲ Flügge  
プロカー Proca  
フィンケル Finger  
ブライス Preisz  
フロッシュ Frosch  
フィオカー Fiocca  
フォードル Fodor  
プレーン Plehn  
フリードレンデル Friedländer  
フリッシュ Frisch  
フォーゲス Voges  
フェールアイゼン Fehleisen

(コ) (ゴ) ノ 部

コッホ Robert. Koch  
コルネワン Cornevin  
ゴールドシャイデル Goldscheider  
コンハイム Cohnheim  
ゴットスタイン Gottstein, A.  
コリスコー Colisko  
コルレ Colle  
ゴツチュリヒ Gotschlich  
コルニル Cornil



所 捌 賣

東京市本郷區湯島切通阪町  
南 江 堂 書 店  
同 日本橋區通三丁目  
丸 善 株 式 會 社  
同 本郷區春木町二丁目  
半 田 屋 書 店

東京市本郷區龍岡町  
吐 鳳 堂 書 店  
同 神田區鍛冶町  
朝 香 屋 書 店  
同 西福田町  
誠 之 堂



著 作 者  
印 發 者 兼  
刷 行 者  
印 刷 所

東京市芝區神谷町十八番地  
淺 川 範 彦  
東京市麻布區麻布網代町一番地  
山 本 重 傑  
東京市京橋區築地三丁目十五番地  
帝 國 印 刷 株 式 會 社

明 治 二 十 九 年 十 一 月 廿 九 日 第 一 版 發 行  
同 三 十 二 年 十 一 月 八 日 增 訂 第 二 版 印 刷  
同 年 十 一 月 十 六 日 發 行

正 價 金 壹 圓 四 拾 錢

(セ) ノ 部  
セラントル Selander  
  
(ス) ノ 部  
ストーン Stone  
スタックル Sticker  
ストラウス Straus  
スプロック Spronck  
ステルン Stern  
スミス Smith  
ステルンベルグ Sternberg  
スクラヴァー Slavo

ジェンナー Jenner  
シュルツ Schulz  
シンプソン Simpson  
シュレージング Schlösing  
ショボー Chauveau  
シュロースマン Schlossmann

(ヒ) ノ 部  
ヒュッペー Hüppe  
ピセンチー Pisenti  
ビルリング Billings

(モ) ノ 部  
モルリス Morris  
モレア Maurea  
モスニー Mosny

人名原字索引 終



# 廣告

傳染病研究所長醫學博士北里柴三郎閱  
傳染病研究所部長 淺川範彥著

## 增訂 實習細菌學 各論 上卷

正價金壹圓參拾錢 郵税金八錢

目次

第一編細菌ノ實習並ニ探究ニ就テノ調査要項○第二編病原的桿狀菌 ○第一章脾脫疽菌屬○第二章惡性水腫菌屬○第三章鳴疽菌屬○第四章破傷風菌屬○第五章結核菌屬○第六章馬鼻疽菌屬○第七章實布埜里亞菌屬○第八章普通大腸菌及ヒ腸室扶斯菌屬○第九章フツ、ドレンテル氏肺炎菌屬○第十章出血性敗血症菌屬○第十一章豚丹毒菌屬○第十二章流行性感冒菌屬○十三章變形菌屬○第十四章綠色螢石光菌屬

增訂 實習細菌學 附錄

## 細菌圖譜

壹册 印刷鮮明  
百五十餘圖 製本美麗

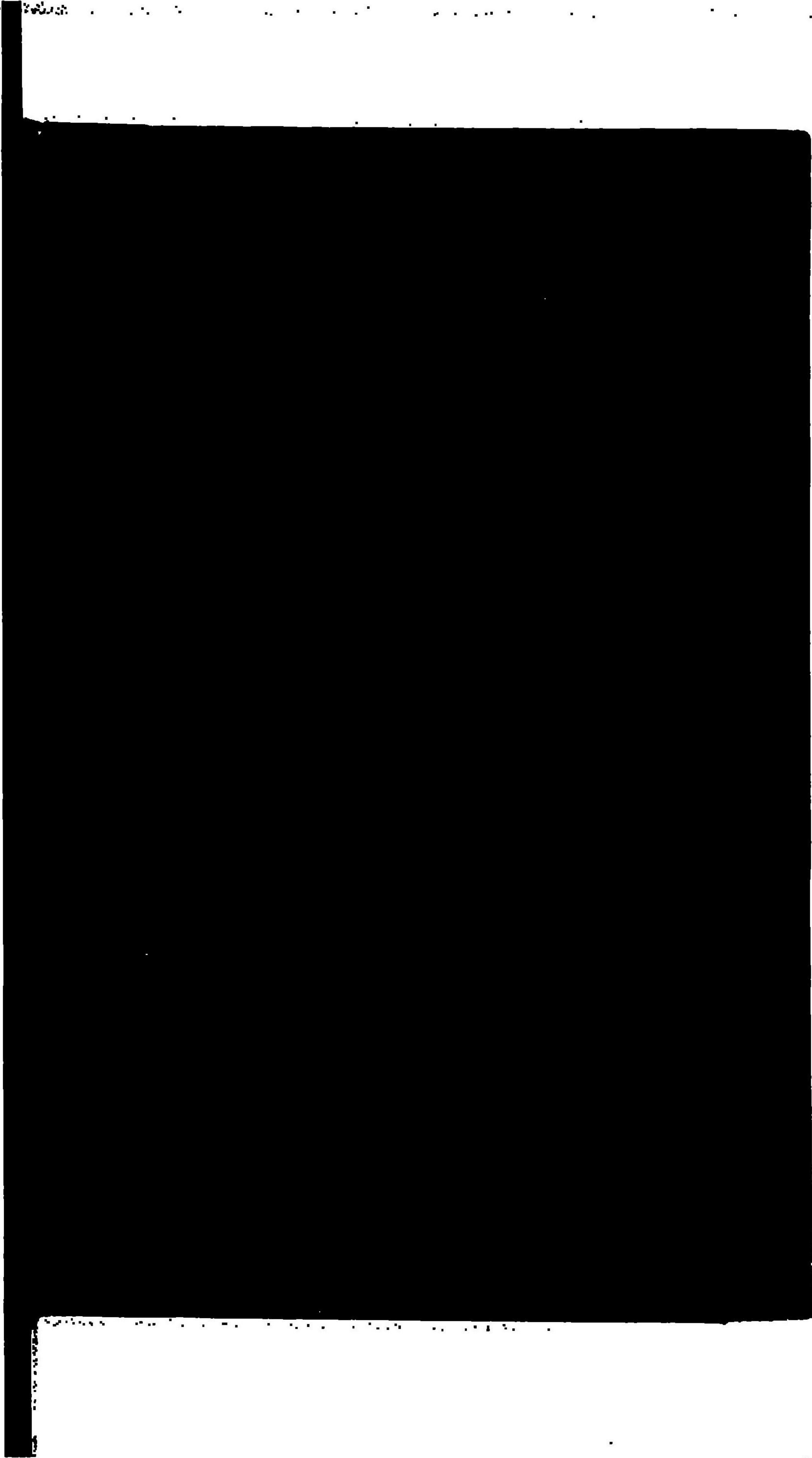
正價金壹圓四拾錢 郵税金拾貳錢

○病原菌及ヒ非病原菌ノ形態並ニ「コロニー」



|     |
|-----|
| 93  |
| 48. |







73  
48



